

宮本茶園 宮本透

佐野川で足柄茶を生産している藤野茶業部農家は 2022 年に 3 軒となり、相模原ブランド構築を目指す佐野川茶生産農家は昨年から 2 軒のみになってしまいました。地域には自家用荒茶に使う茶葉を栽培する農家は今なお数十軒ありますが、どこも高齢化と後継者不足は深刻です。茶園管理作業を一人で行う事が難しくなり、剪枝・整枝の相談を受ける事が多くなりました。私は新規就農時に剪枝機・浅番刈機・刈ならし機と目的に応じた二人用管理機械を購入、県農業技術センターの整枝講習会や営農指導で操作技術を習得しました。お話しをいただくと園主の希望する刈り込み深さにあった機械を用意し、作業のお手伝いをしています。藤野茶業部の昨年度県茶品評会・茶園共進会 2 等賞の実績、佐野川には茶園管理技術を高く評価して下さる方が増えたようです。

先日相模原市農政課に農業経営改善計画認定申請書を提出しました。2016 年新規就農計画書を提出以来ずっと茶・雑穀栽培に取り組んできましたが、残念ながら雑穀栽培は昨年の収穫で断念しました。藤野茶業部が解散した 2026 年 4 月からは茶栽培に専念して佐野川茶生産を担います。宮本茶園の営農活動は今なお後継者育成ができず厳しい現状ですが、5 年後の目標を実現する手だてを考えながら申請書を書き上げました。佐野川茶 8 年間の取り組みが相模原市の農業生産を担う認定農業者に値するかどうか、審査結果を待ちたいと思います。

・藤野茶業部佐野川茶 2 年連続の神奈川県茶品評会入賞

藤野茶業部活動最後の摘採作業は作業人員確保に全力を尽くしました。ヘルパー・自家用茶栽培農家にアルバイトを依頼すると並行し、初めての試みで藤野観光協会から紹介された高尾ファームに摘採機操作・茶葉搬送作業の請負をお願いしました。大河原・宮本茶園の佐野川茶用茶葉摘採作業は 3 日間の日程に 13 人の方が関わってくださり、全ての茶葉を摘採する事ができました。収穫した生葉は刈り始めから 3 時間以内に全てチャピュア清川工場へ搬送して荒茶加工、茶来未佐々木社長から「どちらも甲乙つけがたい良質の荒茶ですね」とお褒めの言葉いただきました。茶来未で仕上げていただいた今年の新茶、評判は上々です！(写真①②)

6 月になると神奈川県茶品評会出品準備にチャピュア清川工場へ通いました。品評会にはチャピュア清川工場加工した和田茶園の足柄茶出荷荒茶と 2 軒の佐野川茶用荒茶、計 3 点を出品する事にしました。機械や篩を使って木茎や粉を取り除き、室温を調整した清潔な作業室でピンセットを使い処理した荒茶から白色の棒を根気よく取り除きました。整枝・施肥・有機資材敷き込みと丹精込めて育てた茶葉をチャピュア清川工場の技術で仕上げていただいた荒茶、最高の状態で品評会審査に臨めるよう気を引き締めて作業しました。(写真③④)

7 月 18 日神奈川県茶品評会審査が行われました。藤野茶業部は荒茶を 4 点出品しましたが、チャピュア清川工場加工した荒茶 3 点は全て 2 等賞でした。今年は足柄茶 100 周年、残念ながら藤野茶業部は解散しますが足柄茶北端産地の茶農家の矜持は 2 年連続上位入賞という結果で示す事ができました。産業としての佐野川の茶栽培、後継者 X 君との出会いを熱望ながら精進続けます。



・夏の茶仕事

大河原副部長から佐野川茶を授業教材にしている津久井支援学校の先生方を紹介されました。教員免許失効以来県立学校とお付き合いする機会は全くありませんでしたが、中学部の生徒が佐野川茶を教材に食べ物や茶製品を使った食べ物作り等年間を通した学習活動をしているそうです。茶園見学したいとの相談をいただき上岩茶園を訪ねてもらった事にしましたが、車椅子を使う生徒の移動時間を考慮すると茶園滞在時間は 20 分程です。教員生活のスタートが学芸大附属養護学校だった私は支援学校の子もたちに学校の中では体験できない企画を考え、茶摘みと中切り更新剪枝作業の見学を先生方に提案しました。剪枝機操作は危険を伴うので、県農業技術センターの先生方にも協力をお願いして受け入れ準備を整えました。茶畑を初めて見た子どもたちは楽しそうに茶葉を摘み、剪枝作業

を見学していました。四季折々きめ細かな茶園管理作業をして美味しい佐野川茶が生産されている事、しっかりと勉強してもらえたと思います。津久井支援学校との交流、今後は楽しみです。(写真⑤⑥)

6月19日夕方の事です。剪枝作業中に段差を踏み外して転倒し、右足首を打撲しました。幸い大事には至らず痛みを我慢して作業を続け、18時過ぎに剪枝機を片付けて帰宅しました。翌朝右足首は痛風発作のように腫れ上がり痛みも強くなったのですが、週末まで請け負った剪枝作業を続けました。23日朝起床して立ち上がると耐え難い痛みで、上野原市立病院整形外科に向かいました。右足首靭帯損傷全治2週間の診断で、痛み止めと湿布薬を処方されました。野良仕事はできなくなりましたが、会議出席や新茶納品など藤野茶業部部長の仕事は休む事ができません。7月5日からは夏整枝作業を予定して、ヘルパーにアルバイトをお願いしています。痛みをこらえ右足を引きずりながら夏整枝・夏肥作業を終えたのは8月6日、立秋の前日でした。

2022年夏の終わりに救急搬送されてから脳や心臓疾患・熱中症と医者通いが多くなり、今年の夏は野良仕事に支障が出る怪我をしました。昨年までINCH活動で雑草栽培を続けた穀物畑は古澤さん親子にゴエモン佐野川チームの醤油仕込みに使う小麦を収穫してもらいましたが、耕耘機で耕起もできず大豆播種を諦めました。手入れができなくなった穀物畑と花卉畑は雑草が生い茂り、情けなくなります。もう一人で8反5畝の農地は耕作できないのかもしれない。昨年からみちくさの会と協働事業に取り組んでいる和田茶園の利用権設定期間が12月末で終了します。今年足柄茶に出荷した荒茶は県茶品評会2等賞になりましたが、地主さんにお返ししようと考えています。新規就農から9年間耕作してきた茶園、耕作放棄せずにみちくさの会や地域の皆さんと一緒に管理を続けて「にほんの里100選」の茶畑景観を守り、観光資源としての価値を高めたいです。(写真⑦)



・第47回相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会

6回目になる相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会の花卉栽培、今年は吉田さんに加えて古澤さん親子と鵜の会の瀧柳さんが担って下さいました。花卉畑への元肥施肥は内郷の動物堆肥積み込みを吉田さん、堆肥撒布を古澤さん親子が手伝ってくれたおかげで昨年は開花が間に合わなかったロシアヒマワリは5月7日に1000株を播種する事ができました。(写真⑧) 献花用ヒマワリ2品種を500粒ずつ播種、ヒャクニチソウは100粒播種して育苗・植え付け作業に取り組みました。スタッフの皆さんが欠株に苗を補植したりこまめに雑草取りをして管理作業をしてくれたので、ヒマワリ・ヒャクニチソウは順調に生育して安心していました。

右足首を怪我してから急傾斜の花畑が歩けず、茶園の夏整枝作業も始まり一月近く花卉畑に入る事ができませんでした。茶園から望む花卉畑は7月連休前になってもロシアヒマワリの花がまばらに咲くだけで、中に入ると背の低い献花用ヒマワリは雑草に覆われ開花していません。2日間必死に草刈りして蕾に日光を当て7月26日には満開となり、必要数を確保して収穫する事ができました。朝7時半に収穫スタッフは上岩集合、ヒマワリとヒャクニチソウを切って槽に詰めていきます。軽トラで相模湖交流センターへ3回搬送、約1000本の生花を用意する事ができました。27日追悼会当日は飾花された会場でたくさんの参加者がヒマワリを献花して下さいました。戦後80年、日本が再び中国侵略戦争をしない事を願っています。(写真⑨⑩)

